

# 興振街で 起業家育成

## 「SOHOつちうら」開設

SOHOはスモール  
オフィス・ホームオフィスの略で、インターネットなどを利用して

SOHO

自宅や小規模な事務所で仕事をする新しい働き方の総称。

# 空き店舗対策にも

中心市街地の空き店舗対策と併せて、IT(情報技術)を活用した起業家の育成を図る土浦市の「SOHOつちうら」が三日、同市川口一丁目のショッピングモール・モール505一階にオープンした。二十代から四十代の起業家六人が入居し、ビジネスチャンスの拡大を目指す。同様の事業は日立市などで実施されているが、空き店舗を利用したのは県内で初めて。



SOHOつちうらは床面積百十一平方メートルに、高速通信が可能な光ファイバーケーブルなどを設置した一区画六平方メートルの入居用施設六区画、商談や入居者同士が交流するサ

SOHOつちうらの開設を祝いテープカットする関係者―土浦市川口一丁目

入居募集に対して二十件の応募があり、書類と面接審査の結果、土浦総合案内サイトの運営や翻訳請負業、企業の事務処理、中国を対象としたビジネスコンサルタント業など、土浦市内の三人をはじめ、つくば市から二人、取手市から一人の起業家が選ばれた。

グルメ情報やイベント情報などを発信する土浦総合案内サイトを運営する高橋仁美さん(四十八)は、今月末で私立高校教員を退職して独立。高橋さんは「まちの中心から土浦の活性化につながる情報を発信したい」と抱負を述べた。

土浦市の中川茂男産業部長は「SOHOで成功してもらい、将来は中心市街地の空き店舗に会社を構えてもらえれば」と語った。